

# 関西 LMAG ニュース

— 創刊号 —

2013 年 5 月発行

IEEE 関西支部 LMAG  
Secretary 木戸出正継 (文責)

## 目次

- ・ LMAG (Life Members Affinity Group) とは
- ・ 1 関西 LMAG 設立認可と設立総会開催
- ・ 2 関西 LMAG 2013 年年次総会
- ・ 3 関西 LMAG 小山 Chair あいさつ
- ・ 4 関西 LMAG 2013 年活動計画
- ・ 5 IEEE 関西支部の現況
- ・ 6 寄稿) 「雑感」 これからの IT について



関西 LMAG Banner

## LMAG (Life Members Affinity Group) とは

経験豊かなライフ会員の更なる能力向上、社会貢献、相互交流などを通じて会員の意見を吸収し会員の便益向上、IEEE 活動に寄与することなどを目的に支部内におかれるローカルなユニットです。

ライフ会員のステータスを持つ会員全員で構成され、本部への申請によって設立されました。この Life Members Affinity Group は支部内で他の委員会と同様の位置づけで活動します。

なお、IEEE 関西支部 Kansai Section Life Members Affinity Group は、2012/6/18 付けにて日本国内で二番目に設立されました。東京 LMAG は 2010 年に設立され、登録会員は今年 1 月末時点で 481 名で、活動状況はホームページ (<http://www.ieee-jp.org/section/tokyo/lmag/index.htm>) (IEEE 東京支部→LMAG 活動) に紹介されています。

### 1 関西 LMAG 設立認可と設立総会開催

2011 年 12 月に IEEE 本部に小山先生他の方々に設立申請を行い、2012 年 6 月に設立が認可されました。申請時の規定に則り、Interim Chair に小山正樹先生（元奈良先端科学技術大学院大学）が就任され、小山 Chair により橋本正弘先生（大阪電機通信大学）が Vice-Chair に、木戸出正継先生（元奈良先端科学技術大学院大学）が Secretary に、それぞれ指名され就任されました。

設立総会は、2012 年 12 月 19 日に住友クラブ（大阪市西区、肥後橋）にて開催され、上記の役員体制が承認されました。



左から小山 Chair、橋本 Vice-Chair、木戸出 Secretary、片桐関西支部 Chair

## 2 関西 LMAG 2013 年年次総会

2013年2月12日にキャンパスプラザ京都(京都市下京区、京都駅間)におきまして、関西支部総会の直前に関西 LMAG2013 年年次総会が開催され、前述の役員体制が2013年役員として承認されるとともに、2013年の活動計画案が示されました。



左から橋本先生、小山先生、木戸出先生

## 3 関西 LMAG 小山 Chair あいさつ

IEEE Kansai Section の LMAG Chair を仰せつかりました小山です。今回、前 Kansai Section Chair の片桐先生はじめみなさまのご尽力により、Kansai Section にも LMAG が設立されることになりました。日本では Tokyo Section に引き続きということになります。

ご存じのように少子高齢化に伴い国内学会のほとんどが会員数の減少に見舞われています。ところが IEEE は特に日本を含めてアジア諸国の会員は増加しております。この Kansai Section も発足当時の 1500 名より今は 2200 名を越えるまでになっております。Kansai Section LMAG につきましてもこのあたりの分析をしっかりと行い、日本のそして世界の科学技術の発展に少しでも貢献できるよう努力して行きたいと思っております。どうか会員のみなさまにも積極的に Kansai Section LMAG にコミットされますようお願いいたします。

## 4 関西 LMAG 2013 年活動計画

2013 年の活動は、何より活動初年度として活動を軌道に乗せることにあります。先輩格の東京支部 LMAG の活動を参考にしつつも関西らしさを随所におこなった活動にして行くべく、Secretary および事務局にて種々思案をしております。技術講演会も関西支部 TPC(Technical Program Committee)と連携して開催することを計画しております。

まずは LMAG メンバーの登録数は 113 名であります。皆様のご関心と活動内容のご希望の把握をすべく、別途アンケートを発行させていただきました。お寄せいただくご回答内容を元に、参加して楽しい持続性のある具体的な計画へと練り上げてまいります。未回答の方は五月末までにご回答の程、よろしくお願いいたします。

現時点では秋頃の見学会&技術講演会の企画、年末の懇親会の企画が進行中です。お楽しみにしていただくと共に、その際には積極的なご参加をよろしくお願いいたします。

## 5 IEEE 関西支部の現況

この機会に、関西支部の現況を簡単にお伝えいたします。

2012 年 12 月時点の会員数は、2,372 名で 1998 年の関西支部設立以来、年々増加を続けております。支部傘下の関西 Chapter は 11 chapters、Student Branch は今年初めに設立認可されました同志社を含めまして 7 SBs となっております。

Japan Council の小山 Chair、白川 History Committee Chair、Region 10 の尾上 Treasurer、IEEE 本部の川本 History Committee といった要職にも関西支部の方が就かれております。

2011 年 9 月に新装になりました関西支部 web page にも多くの情報が掲載されております。<http://www.ieee-jp.org/section/kansai/> ”IEEE 関西支部 “で検索いただいてもすぐに見つかりますので一度ご覧下さい。

## 6 「雑感」これからの IT について

(今号では、小山 Chair から、寄稿いただきました。)

IT の進歩は速い。2-3 年前にマスコミなどでもてはやされた「スマホ、スマホ」が今やだれもが気軽に使っている。電車の中では、老若男女を問わず下を

向いて指をスマホの画面上でフリック(フリングともいう)している。このフリックという動作も今や目新しいものではなく、テレビの広告などでも頻繁に使われるようになった。また、2つの指で画面を広げたり、狭めたりするピンチイン、ピンチアウトも特段新しいものではなくなった。

スマホとともにタブレットも結構使われている。本を読んだり、写真を撮ったりにも使われるようになった。タブレットのレンズで写真を撮るというのも撮られるほうからすると従来のカメラと違う感覚になる。レンズに向かうというより、タブレットの板に向かうという感覚だからである。タブレットで驚くのは、動画像が大変きれいに撮れることである。昔の8ミリやビデオカメラとは比較にならないほど高画質でしかも明るい。さらに驚くことには、長時間撮影ができることである。昔人間からすると、バッテリーとメモリーが気になるが、これが全く問題ない。驚くべき技術進歩というべきであろう。

このような現象は日本国内だけのものではない。先日、IEEE Region10 総会に出席するためタイ国のチェンマイに行ってきたが、空港でもまた街中でもスマホを使っている人を多く見かけた。私が持っているコンパクト型の携帯電話はポケットから出すのが恥ずかしく感じられた。もはや、携帯電話も古い技術になったのかと愕然としたものである。日本が先進国で、その他のアジアの国々が開発途上国という言葉はもはや全くあてはまらないと痛感した次第である。

このように技術進歩が早いITであるが、これをいかに社会に役立てていくのかはこれからの課題であろう。我々は現役を離れたとはいえ常に自ら切磋琢磨し、これらの技術進歩に遅れないようにするべきと思う。そのためにも、今まで以上に積極的にITに向き合いたいと思っている。

小山

## 会員リニューアル手続き

まだ手続きがお済みでない方は、2013年の会員サービス及び刊行物の継続利用の手続きをお願い致します。この手続きは、[www.ieee.org/renew](http://www.ieee.org/renew) にアクセス頂くか、本部より郵送されたLM更新手続きの用紙で行うことができます。IEEE Life Members Fundへ寄付のご検討も併せてお願い致します。年間30万USドル以上のLife Members Fund 慈善支援は、各教育レベルにおいて工学・科学・数学への興味を増進させる活動や、電気・情報技術の歴史を残す活動、そしてIEEE ライフ会員の膨大な経験の活用などの目的に使用されます。

**IEEE Kansai Section Life Members Affinity  
Group**  
Newsletter 2013 年 5 月 発行 第 1 号  
発行: IEEE 関西支部 Life Members Affinity Group  
E-Mail: [lmag-kansai@ieee-jp.org](mailto:lmag-kansai@ieee-jp.org)